

# 全科協ニュース

1984年9月1日発行  
(通巻第79号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園  
国立科学博物館内

〒110  
Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇特別展「小哺乳類の世界——野や森の小さなけものたち——」について 神奈川県立博物館  
◇第1回天文工作のつどい「飛び出す星座板をつくろう」 東京都児童会館・天文博物館五島プラ  
ネタリウム ◇会員館園の紹介 神戸市立青少年科学館

## 〔特別展〕

### 特別展「小哺乳類の世界——野や森の小さなけものたち——」について

#### 神奈川県立博物館

当館では、7月22日から9月2日(開催日数37日)まで特別展「小哺乳類の世界——野や森の小さなけものたち」を開催した。この展示は、日本にすむ哺乳類のうち食虫目、翼手目、齧歯目の3グループの動物を便宜的に「小哺乳類」として扱った。その分布や形態、人とのかかわりあいなどさまざまな様子を剥製、骨格、化石など標本約250点、そのほか写真、図パネル、模型など総数430点を用いて構成し、特別展示室(249㎡)で行った。関連行事として講演会2回、夏休み子供映画会6回、展示解説なども実施した。

この特別展を終了するに当たり、今回の展示で試みた工夫や感想など簡単に紹介する。

立派な角を持ったシカや、口を大きくあけたヒグマの剥製標本は、その標本だけを展示することで展示効果は十分得られる。しかし、今回の展示で扱ったネズミ、モグラ、コウモリは哺乳類の中でも見映えのしない代表的なものであり、また、多くの標本が研究用に製作された目も無く、手足をピンと伸ばしただけの仮剥製標本である。まして、ネズミは私たちの身の回りの動物でもゴキブリと共に最も嫌われ者。これを一堂に集めて展示するのであるからどのようにしたらよいか頭を痛めた。

そこで、会場をできるかぎり明るく、爽やかな感じが得られるように気をつけた。展示台、バックパネルの色は緑色、黄色系統でまとめた。展示する標本や資料は、当初予定していたものより2割ほど控えめにした。また、今回初めて原図をリスフィルムで撮影し、白黒パネルに伸ばし、カラーブラシで着色する方法で図パネルを製作したところ、予想以上に美しくスッキリとしたもの

が出来上がり、展示効果も十分高めることができた。

そのほかでは、特別展会場入口においてカヤネズミ、アカネズミ、シマリスなど5種15匹の動物を飼育展示したところ、子供たちには大変な人気であった。また、「ネズミと聞いただけで鳥肌がたつ」と言っていた人も、カヤネズミのかわいい仕草を見て、今まで持っていたネズミは気持ち悪いものというイメージを少なくさせる効果がみられた。

当館では10年ほど前から、毎週日曜日に映画を上映し好評を得ているが、今回初めての試みとして「夏休み子供映画会」を毎週木曜日の11時と14時の2回、計6日間開催した。8月23日には南極犬タロ、山ねずみロックータックの2本を上映し、午前には86名、午後96名の観賞者を数えた。各回とも100名前後の観賞者があり、この企画は子供たちに大変好評であった。



子供たちに人気のあった飼育展示

最後に、催物を行った場合、どこの館、園でも入館者数は一番気になる場所である。「開幕早々から連日の大盛況である」と大きな文字で書きたいところであるが、7月28日から始まったロスオリンピック中継や真夏日を連日記録したように異常とも思われた今夏の猛暑は、人々を海へ、プールへと足を向けさせ、当館の入館者数は12,168名<sup>・</sup>と思ったほどではなかった。新聞などの報道によるとあの夏の甲子園高校野球でさえ例年の何割減の入場者とのこと。それと比較すると当館は大健闘か、と特別展を担当した者としては一人で満足している。

しかし、会期中に多くの入館者から「もっと宣伝をしたら、入館者が少なすぎるのではないか」と、当館の催

物に対する宣伝不足が指摘された。そういえば、横浜市内にあるいくつかのデパートでは新聞社と共催で催物を行い、電車内広告、新聞、テレビなど広報の方法もありとあらゆる方法で、かつ宣伝のプロフェッショナルが効果的な宣伝をしていた。それらと比較するとなおさらである。

今回の特別展でも初めての試みとして7,000枚余の宣伝ビラを手づくりで印刷し、それを職員が各家庭に配布して廻るなど工夫はしたものの、宣伝効果となると今一步の感じがする。なにかいい方法がないものかと痛感している次第である。

(山口佳秀)

## 〔教育活動〕

### 第1回天文工作のつどい「飛び出す星座板をつくろう」

#### 東京都児童会館・天文博物館五島プラネタリウム

本年8月29日、30日の2日間、東京都児童会館で天文工作のつどいを開いた。この企画は、東京都児童会館と五島プラネタリウムの2館によって立てられたものである。両館は徒歩10分程度の距離にあり、お互いの交流はあったものの、共同で一つの行事を行ったのは今回が初めてである。ここでは、その準備段階を中心にこの企画を振り返ってみる。

#### 背景にあったこと

五島プラネタリウムは、プラネタリウムの投影を行うドーム内と、ドームまわりの展示場という限られた空間しか持ちあわせていない。博物館活動をするうえで、これはかなりの制約を受けざるを得ない。人を集めて何か物を作るという場がなく、必然的にそのような活動を望むのは不可能である。もし、そのような場があれば、話を聞き、展示を見て、体を動かして何かを作ることができる。それは、何かをより総合的に理解できる機会を入館者に与えられることを意味する。もっと簡単に考えても、物を作るという作業は、人の知的好奇心を誘い、作る側も、作らせる側も楽しみながら学習ができると考えられる。

五島プラネタリウムでは、夏休み中に特別展を開催している。84年のタイトルは「星座なんでも展」で、星座に関する内容をいろいろ集めたものであった。その特別展活動の一環として、何らかの方法で星座早見盤を作るような場が持てないか、策を練っていた。そんな時に思い付いたのが、児童会館の存在であった。

早速、児童会館の落合氏へ連絡を取り、夏休み中に教室を使わせてもらえるかどうか、できれば共催という形が取ればよいのだが、という話を持ち込んだ次第であ

る。確か、まだ寒い2月頃だったように思う。この話は思いのほか、トントン拍子に進み、共催という形で実現されることになった。

#### 何を工作するか

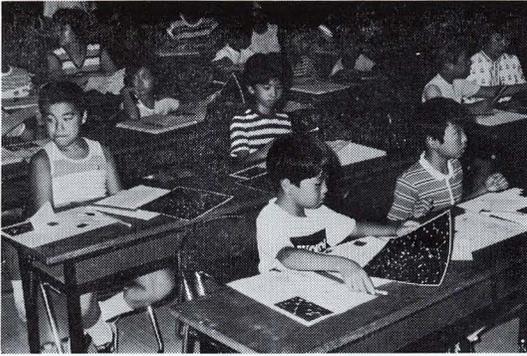
- ・場所は、東京都児童会館の100名収容できる教室。
- ・人数は、めんどうが見られる人数で、1回に50人。
- ・対象は、小学生以上。
- ・費用は、すべて込みで1,000円以下。
- ・内容は、2～3時間以内にすべてが終わる内容。
- ・日程は、夏休みの後半、2日間ぐらい。

以上のようなことは、2～3回の打ち合わせで決まっていたが、問題は何を作るのか、作った物がどんな意味を持つのかである。プラネタリウム側では、初めてのことで、星座早見盤がよいのではないかと考えていた。しかし、児童会館側では、それを以前に作ったこともあり、新鮮味がない。もっと楽しいものはないのか、とすげなくあしらわれてしまった。

困ったのがプラネタリウム側である。小学生の能力に合った難易度で、短時間に完成し、楽しい内容のものを考えるのは、かなり難しい。何種類も考え、現実性を考えたあげく、立体写真の応用で、星の距離に応じて星が飛び出して見えるものと決まった。

左右に青と赤のセロハンが張ってあるメガネで、赤と青の色で書かれた星図を見ると飛び出して見えるものである。これなら、原図を用意し、色を塗る作業と、メガネを作れば完成である。星には、近い星と遠い星があることも理解できる。名付けて、飛び出す星座板とした。

原図はプラネタリウムで作り、印画紙に焼き付けた物を配る。図は大きい方が見やすいから四つ切、種類も4



種にする、と決まったのが5月に入ってからである。この時期が、地元広報紙の夏休み行事の原稿締切り時期でもあった。料金はすべて込みで700円とした。

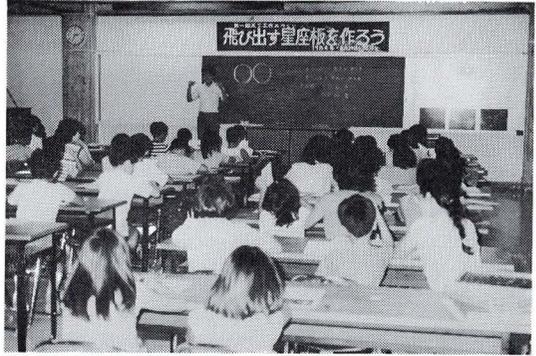
#### みんな一所懸命

日程が正式に8月29、30日の2日間と決まり、夏休みに入ってからすぐピラを置くなどして宣伝をした。受け付けを始めると、尻上りに希望者が増えてしまった。8月中旬で、定員オーバーになり、それ以降はみんなお断りした。

希望者が多いのはうれしかったが、その準備が大変である。人数分の4倍の数だけ、四つ切の引伸しをしなければならない。両館の担当者は、それぞれ1週間ほど暗室に入り、500枚も写真を作った。これは、少々負担が多過ぎたように思う。

当日、プラネタリウムから4名、児童会館から2名で天文工作のつどいを進めた。始めに映画を20分鑑賞し、星の距離の話を簡単にしてから、工作に移った。

メガネは、厚紙に四角の穴を4個あける作業である。子供たちにとって、カッターナイフで穴をあける作業は想像以上に困難を極めた。ナイフの刃の出し具合、力の入れ具合がまずくて、何度も同じ所を切らないと貫通しない子。セロハンをはさんでボンンドで付けるにしても、



ボンンドを付け過ぎたり……。大人の感覚では、考えられなかった。しかし、どの子供も、それぞれ一所懸命に作業に熱中しており、その姿に声援を送らさずにはいられなかった。

4種の原因の中から1枚に色を塗ったが、すぐ終わる子や、ていねいに塗る子。星が飛び出して見えたと報告に来る子や、色の塗り方が雑すぎてダメな子。見ていると、実に個性豊かである。とにかく、全員が時間内に完成して終わることができた。

#### 最後に

今回の企画は、まったく前例がない状態から出発したにもかかわらず、何回もの打ち合せを経て、当事者がいうのも変だが好評を得ることができた。これも普段からの個人レベルでのお付き合いがあったからこそである。プラネタリウム側の不手際も、児童会館がすべてカバーしてくれたことには、頭の下がる思いである。

最後にひと言。時間が来ると8割ぐらいの子供たちは、サッと帰ってしまう。帰る子供をつかまえて、「ゆっくりしていけよ」というと、「塾があるから……。」

最近の子供は、忙しいんですね。

(五島プラネタリウム 木村直人)

## 日浦勇氏の選集、著作集の刊行について

大阪市立自然史博物館の日浦勇氏が、昨年10月18日に急逝されてから1年近くになるが、このたび日浦勇選集「蝶一分布と系統」が刊行される運びとなった。第四紀の生物地理学という観点から、蝶に関する著作が選ばれており、「日本列島における昆虫相形成過程」という壮大な研究テーマに取り組んでおられた日浦氏が偲ばれるものである。(蒼樹書房刊、4,500円)

またこの選集を補い、氏の広範にわたる業績を学ぶために「日浦勇著作集」の準備が進められている。ここに

は、選集からもれた生物地理学や蝶に関する重要な著作、化石研究の初期の着想から昆虫遺体の解明へとつながる著作のほか、学芸員として実践の中で語られた博物館活動のこと、普及活動のこと、自然観察のことなど61篇が収められる。B5判で344ページのこの著作集は、「日浦さんの遺稿を出版する会」へ寄せられた募金によって発行されるもので、一般への販売は行われぬ。本書の入手を希望される方は、直接下記へお問い合わせいただきたい。

大阪市立自然史博物館昆虫研究室気付

「日浦さんの遺稿を出版する会」事務局 宮武頼夫

Tel. (06) 697-6221

---

 会 員 館 園 の 消 息
 

---

## 神戸市立青少年科学館

私たち自身、すなわち人間そのものの成り立ちと機能を知ることを手がかりに、科学についての関心を高め、理解を深める——これが神戸市立青少年科学館の基本的なテーマである。

3年前に『ポートピア'81』の会場としてにぎわったポートアイランドの一角に、本年4月29日オープンした当科学館は、まず自分自身への科学的な興味を呼び起こすことから始め、人間を含めた自然現象を支配している物理的・化学的な法則、人間の集団である社会を支えているさまざまな情報とその科学、そして、私たちが生きる地球、その地球の属している宇宙へと視点を広げていくように構成されている。

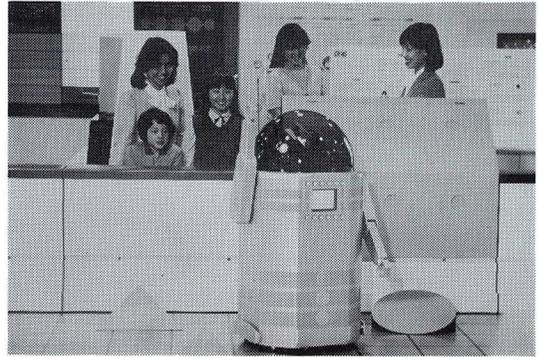
**力としくみの科学** ここは、自分たちの運動機能を試すさまざまな装置から始まる。筋肉と骨格、心臓——これらの人体のなかの機械的なしくみがどのように機能しているかを通して、力としくみについての関心を高めたのちに、物理学の基礎を解説する。



力としくみの科学（1階）

**物質とエネルギーの科学** 人間の体はどのような物質でできているかの解説から始まり、原子とは何か、分子とは何かと物質の本質に迫り、一方では燃焼を中心にして燃焼の科学から、さまざまな熱機関の原理へと展開している。人間の体とそのエネルギーの代謝のしくみを手がかりにして、化学の基礎を解説する。

**情報の科学** この入口には知能ロボット『ロボット神ちゃん』がいる。人間の命令を聞きとり、その指示に従って自らの判断で行動するこのロボットは、私たちが的確な行動をするためには、情報に関するどのような能力が必要であるかを示す。そして、視覚・聴覚・触覚など生物の情報システムから、光・電気・音という重要な情報媒体へと話をすすめ、現在の情報システムのなかで中心的な役割を果たしている電気通信の科学と技術、さ



知能ロボット『ロボット神ちゃん』（3階）

らにコンピューターの科学と技術へと発展していく。

**環境の科学** 私たちの住む地球を、宇宙の一つの星としてとらえ、その特色を、なぜ地球に生命が存在しているのかを中心に明らかにするとともに、この地球が人間にとってはかけがえのないものであることを訴える。その象徴として、直径4.2m、実物の300万分の1の大地球儀を展示している。

**プラネタリウム** ドーム直径20m。投影できる恒星数13,000個の最新のプラネタリウムと、数多くの補助投影機をコンピューターでコントロールすることによって、美しい映像をダイナミックな音楽とともに展開しながら、天文学の基礎知識を、楽しい星座のドラマとして演出する。

プラネタリウムは、年4回プログラムを変更する一般番組のほか、文部省の学習指導要領に準拠した幼稚園・小学校低学年用、小学校4年生用、小学校5年生用、小学校6年生用、中学生用、高校生用の学習番組も合わせて投影している。

**普及活動** パソコン教室、科学工作教室、天文教室、天体観望会など各種教室を開催しており、いずれも定員をはるかに超える応募を得て、好評を博している。

また、科学講演会や映画会なども実施しており、今後は友の会を組織するなど、一層充実させていきたいと考えている。

**所在地** ☎650 神戸市中央区港島中町7-7-6

**電話** (078) 302-5177

**開館時間** 9時30分～16時30分（入館は16時まで）

**休館日** 水曜日、第4木曜日（いずれも祝日と重なった場合は翌日）、年末年始

## 〔人事移動〕

○東京都児童会館

新館長 大野 正、 前館長 柏木 和子